

《担当者名》○吉田晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 岩部達也 佐藤一成 用田歩

【概要】

脳血管疾患の病態や障害像を理解し、こうした疾患の画像所見や機能障害、能力低下の評価方法および標準的なりハビリテーション介入について学び、その病期や重症度に合わせた介入方法について理解する。

【学修目標】

一般目標

脳血管疾患に対する理学療法の理論的背景を知り、様々な病態へ適応する能力を身につけるために、脳血管疾患の概要や基本的な評価、治療について理解する。

行動目標

1. 中枢神経系の損傷による障害について説明できる。
2. 各種疾患、病態に応じた適切な評価方法を理解し、実践できる。
3. 各種疾患の病期に応じた標準的リハビリテーションの概要を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	中枢神経の損傷と回復	脳血管経疾患の病態や中枢神経損傷後の回復プロセス、神経可塑性について学ぶ。	吉田晋
3) 4	脳血管疾患の病態と評価1	脳血管疾患のCT、MRIなどの画像所見の診かたや機能障害の評価方法について学ぶ。	吉田晋
5) 6	脳血管疾患の病態と評価2	脳血管疾患により生じる意識障害、高次脳機能障害の評価法について学ぶ。	吉田晋
7) 8	脳血管疾患の評価の実際1	ブルンストロームステージや片麻痺機能検査（12グレード法）などの運動麻痺の評価方法について演習を通じて身につける。	吉田晋 岩部達也 佐藤一成 用田歩
9) 10	脳血管疾患の評価の実際2	SIASやNIHSSなどの総合的評価スケールを用いて脳血管疾患の障害像を把握するスキルを身につける。	吉田晋 岩部達也 佐藤一成 用田歩
11) 12	脳血管疾患の病態と評価3	脳血管疾患によって生じる基本動作能力低下に対する評価法および動作分析の進めについて学ぶ。	吉田晋
13) 14	脳血管疾患の評価の実際3	動画や異常動作の模倣から得られた情報を用いて寝返りや立ち上がりなどの基本動作の動作分析を行うスキルを身につける。	吉田晋 岩部達也 佐藤一成 用田歩
15) 16	脳血管疾患の評価の実際4	動画や異常動作の模倣から得られた情報を用いて歩行分析を行うスキルを身につける。	吉田晋 岩部達也 佐藤一成 用田歩
17) 18	脳血管疾患の評価の実際5	FIMやBarthel Indexなどの評価指標を用いてADL能力を評価するスキルを身につける。	吉田晋 岩部達也 佐藤一成 用田歩
19) 20	脳血管疾患の評価の実際6	静的・動的バランスや外乱応答など姿勢制御能力を評価するスキルを身につける。	吉田晋 岩部達也 佐藤一成 用田歩

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
21 }	脳血管疾患の理学療法	急性期から回復期、維持期に至る各病期の理学療法介入について学ぶ。	吉田晋
22			
23	まとめ	重要事項について整理する。	吉田晋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【教科書】

吉尾雅春 他 編 「標準理学療法学 神経理学療法学」 医学書院 2013年

千野直一 他 編 「脳卒中の機能評価 SIASとFIM」 金原出版 2012年

【参考書】

道免和久 編 「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」 医学書院 2013年

安藤一也 他 編 「リハビリテーションのための神経内科学」 医歯薬出版 2003年

里宇明元 監修 「神経科学の最前線とリハビリテーション-脳の可塑性と運動」 医歯薬出版 2015年

小松哲夫 監修 「神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ」 メジカルビュー社 2019年

【学修の準備】

シラバスを確認し、授業内容に関連する内容について教科書等を用いて重要事項を整理し、ノートを作成するなど予習して授業に臨むこと。（120分）

授業後は配布資料、教科書や引用文献をもとに知識をさらに深め、わからないところは質問するなど復習をしっかりとすること。（120分）

試験前には集中的に授業内容の整理、確認を行い、知識の定着を図ること。（10時間）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士） 岩部達也（理学療法士） 佐藤一成（理学療法士） 用田歩（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での臨床経験にもとづき講義する。